ホクレン
インフォメーション
農業総合研究所
の成果

にんじんの黄化病について

営農支援センター　営農技術課
TEL:0123-88-3330
E-mail:einougijyutu@hokuren.jp

（背景、目的）

ニンジン黄化病は、ニンジン黄化ウイルスを病原とするウイルス病です。感染すると葉が黄化または赤化し(図 1)、生育が不良となります。これまで北海道における分布は明らかではありませんでしたが、各地で調査を実施した結果、道内に広く発生していることが明らかとなりました。北海道ではニンジン黄化ウイルスの単独感染が一般的ですが、複数種のウイルスが混合感染している事例も確認されています。

今回営農技術課では、北海道における本病の影響を明らかにするため、詳細な調査を行いました。

図 1. ニンジン黄化病の症状

図 2. 単独感染(左)と混合感染(右)の症状

（方法）

媒介虫のニンジンフタオアブラムシを用いて接種を行い、単独感染時および混合感染時の症状の観察と、一根重の調査を実施しました。

（結果）

接種試験の結果、単独感染時には下葉に黄化や赤化が生じ、混合感染時には斑紋症状を伴うより激しい症状が確認されました(図 2)。それに伴い根も小さくなり、単独感染時には約 20%、混合感染時には 50%以上も一根重が低下しました（図 3）。このことから、本病は北海道においても減収を引き起こしているものと考えられました。

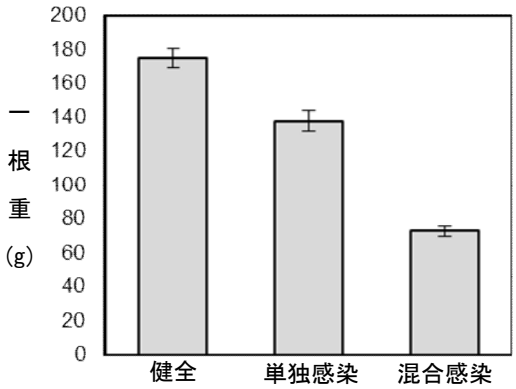

図 3. 感染による一根重の減少

（防除・注意点）

本病はセリ科を好んで寄生するニンジンフタオアブラムシによって媒介されます。このアブラムシが圃場に飛来し、増殖する時期に防除することが効果的です。ホクレン長沼研究農場では毎年 5 月下旬から飛来が確認されますが、各地で発生消長が異なる可能性もあるため、各地の実態に合った防除を行うことが重要です。